

グラフで見る **令和5年**

東京の労働安全衛生



トップが発信！ みんなで宣言 一人一人が「安全・安心」

東京労働局 労働基準部

ホームページ <http://tokyo-roudoukyoku.jsite.mhlw.go.jp>

はじめに

令和5年度は第14次東京労働局労働災害防止計画（2023年度～2027年度）の初年度に当たります。

東京労働局では、「Safe Work TOKYO」の下、“トップが発信！ みんなで宣言 一人一人が「安全・安心」”をキャッチフレーズとして、すべての関係者が認識を共有して安全・安心な首都東京の実現に向け、官民一体となった取組を推進しています。

なお、労働災害による死亡者数及び死傷者数は、いずれも新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除いた労働災害発生状況（P18～19除く）としています。

目次 CONTENTS

	はじめに	1
1	労働災害による死傷者数の推移（休業4日以上）	3
2	業種別死亡災害発生状況の推移	4
3	事故の型別死亡災害発生状況の推移	5
4	業種別死傷災害発生状況の推移	6
5	事故の型別死傷災害発生状況の推移	7
6	業種別・事故の型別・起因物別死傷災害発生状況	8～9
7	建設業における過去5年間の死亡災害発生状況（平成29年～令和4年）	10～11
8	第三次産業における死傷災害発生状況	12
9	第三次産業における業種別・事故の型別死傷災害発生状況	13
10	事業場規模別死傷者数と度数率の比較	14
11	令和4年死亡災害事例（抜粋）	15～16
12	過去5年間の項目別有所見率等の推移	17
13	業務上疾病発生状況の推移	18～21
14	東京の労働衛生関係災害発生事例（令和4年）	22

凡例

全国の統計

死傷者数は、平成23年までは労災給付データ、平成24年以降は労働者死傷病報告による。

死亡者数は、死亡災害報告による。

※ 平成23年は、東日本大震災を直接の原因とするものを除いた数である。

東京の統計

1. 死傷者数は、平成14年までは労災保険給付データ、平成15年以降は労働者死傷病報告による。

死亡者数は、死亡災害報告による。

※ 平成23年は、東日本大震災を直接の原因とするもの（死亡者5人、死傷者55人）を含んだ数である。

2. 製造業は、電気・ガス・水道・熱供給業を含む。

3. 運輸業は、運輸交通業及び貨物取扱業の計である。

4. 第三次産業は、

① 電気・ガス・水道業、運輸交通業及び貨物取扱業を含まない。

② 労災非適業種を含む。

5. 業種の「その他」は、鉱業、農林業及び畜産・水産業の計である。

6. 比率の合計は、小数点第二位を四捨五入しているため、100%とならないことがある。

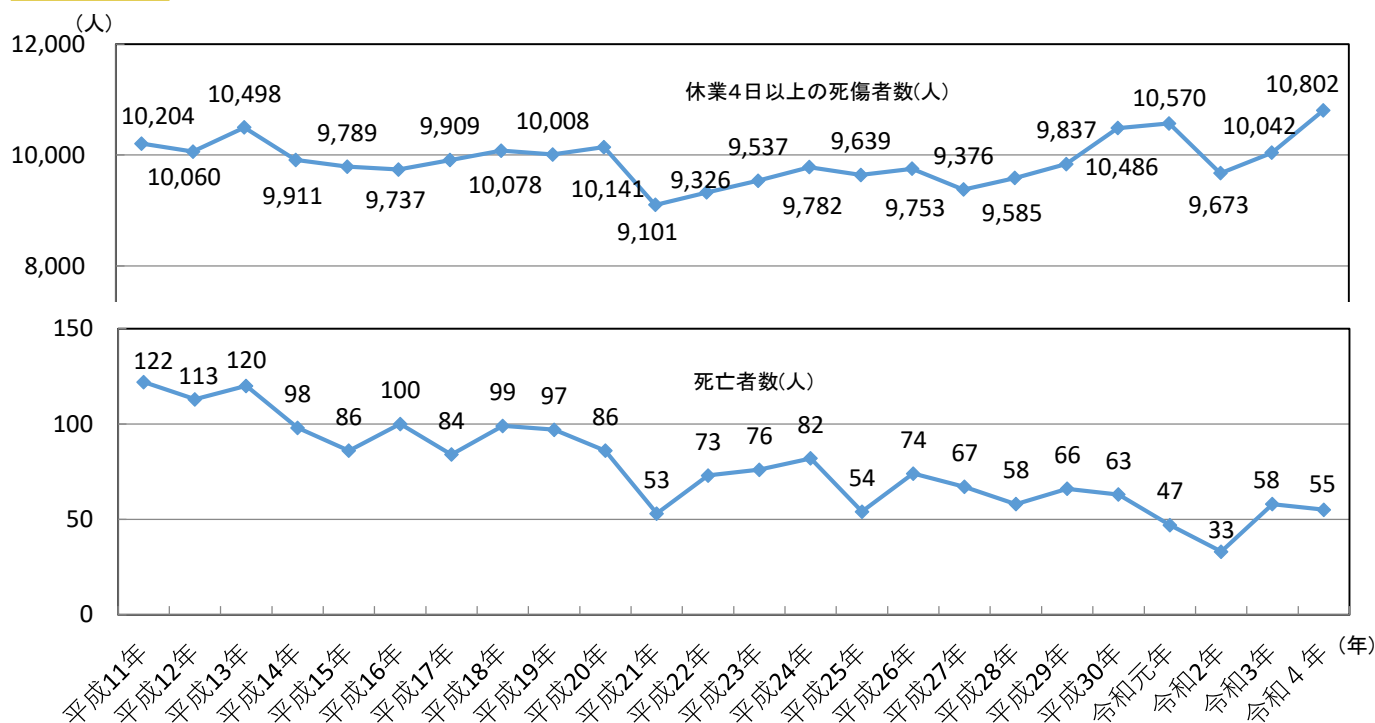
労働災害による死傷者数の推移（休業4日以上）

東京の労働災害の死傷者数は、リーマンショックの翌年の平成21年は9,101人と最少を記録しましたが、その後は増加傾向にあり、令和4年には、新型コロナウイルス感染症へのり患によるものを除いた死傷者数が10,802人となり、近年で最も多い発生状況となりました。

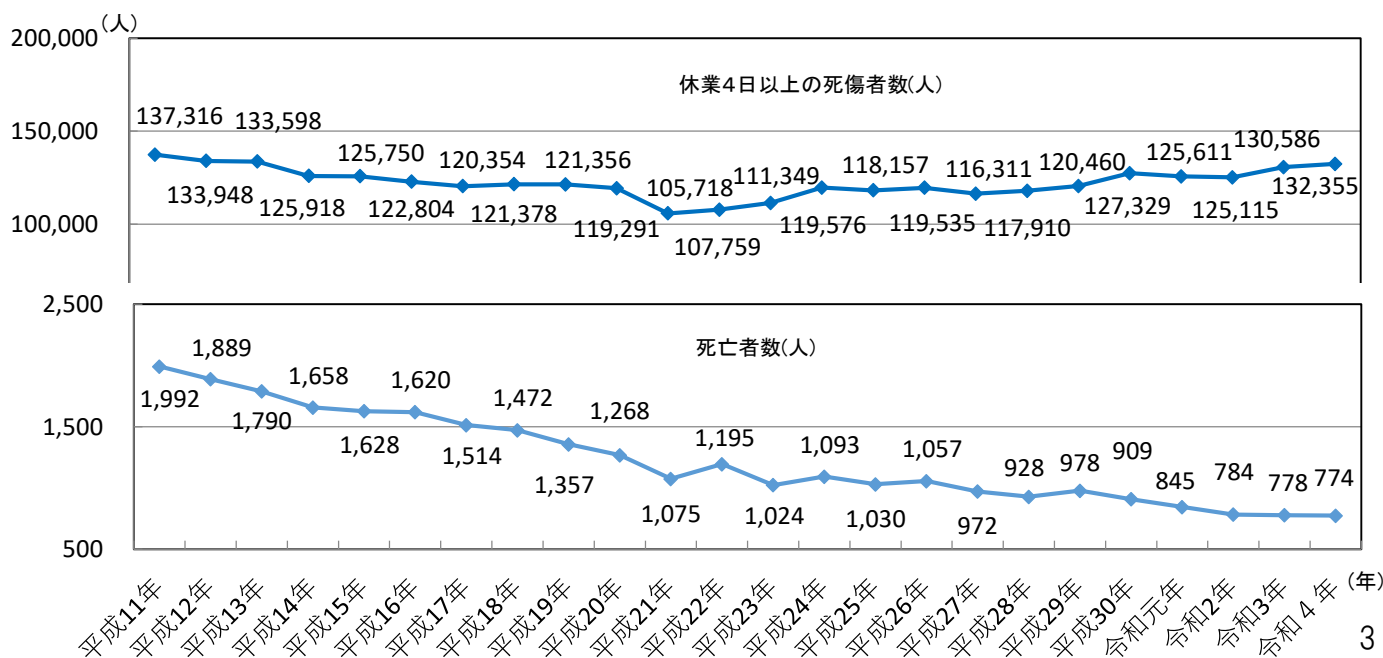
また、東京の労働災害による死亡者数は、新型コロナウイルス感染症へのり患によるものを除いて令和4年は55人となり、2年連続50人を超える状況となりました。

労働災害による死傷者数の推移 （新型コロナウイルス感染症へのり患によるものを除く）

東京



全国



業種別死亡災害発生状況の推移

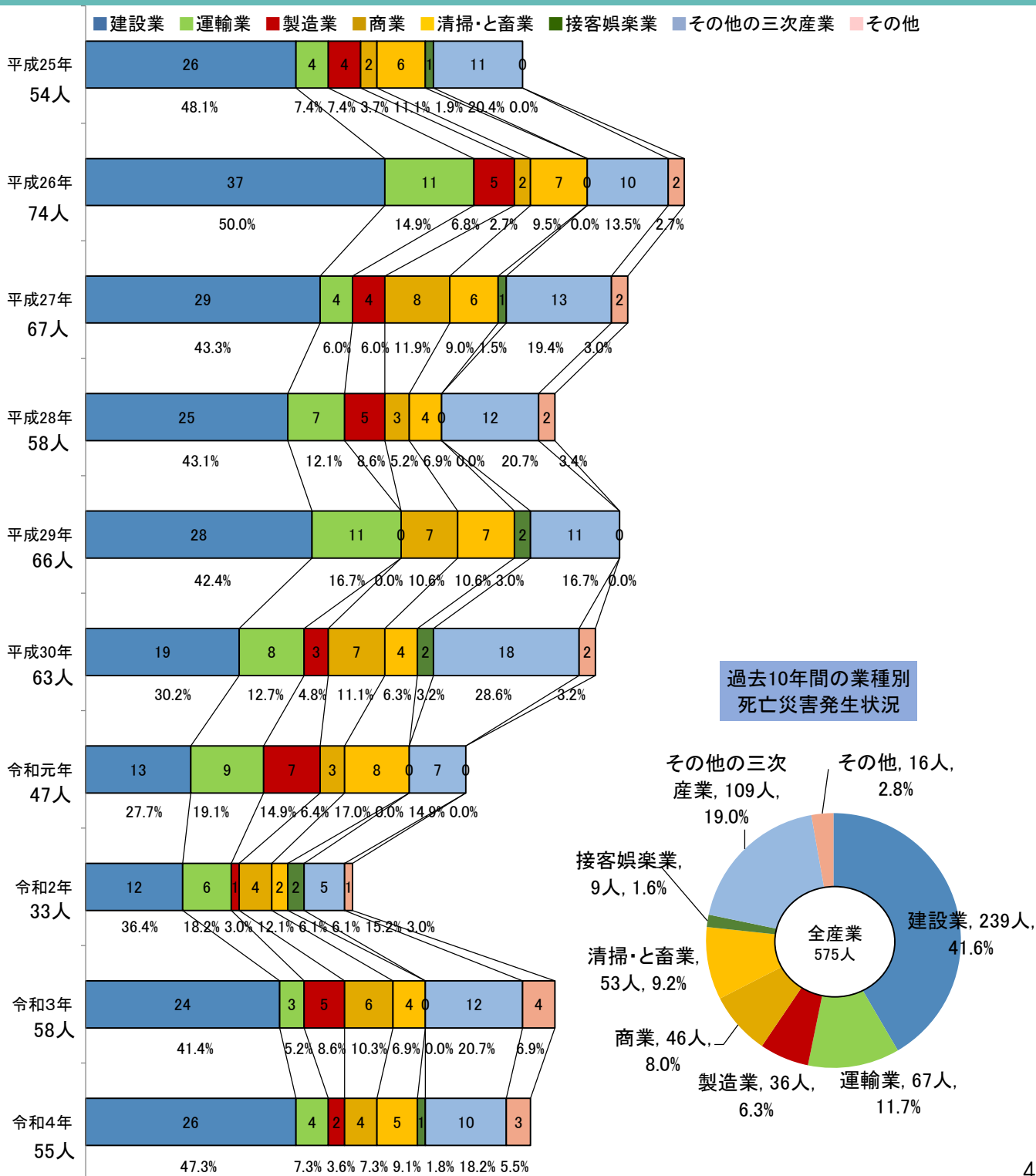
－ 死亡災害の9割以上が建設業、運輸業及び第三次産業で発生 －

令和4年の死亡者数55人を業種別にみると、建設業は前年と比較して2人増加の26人、商業等の第三次産業(※)は前年より2人減少の20人となりました。

全業種に占める死亡災害が割合は、建設業47.3%、運輸業7.3%、第三次産業36.4%であり、この3大業種で全体の9割を超えています。

※ 第三次産業は下図において、商業、清掃と畜業、接客娯楽業、その他の第三次産業の合計を指します。

業種別死亡災害発生状況の推移 (新型コロナウイルス感染症へのり患によるものを除く)



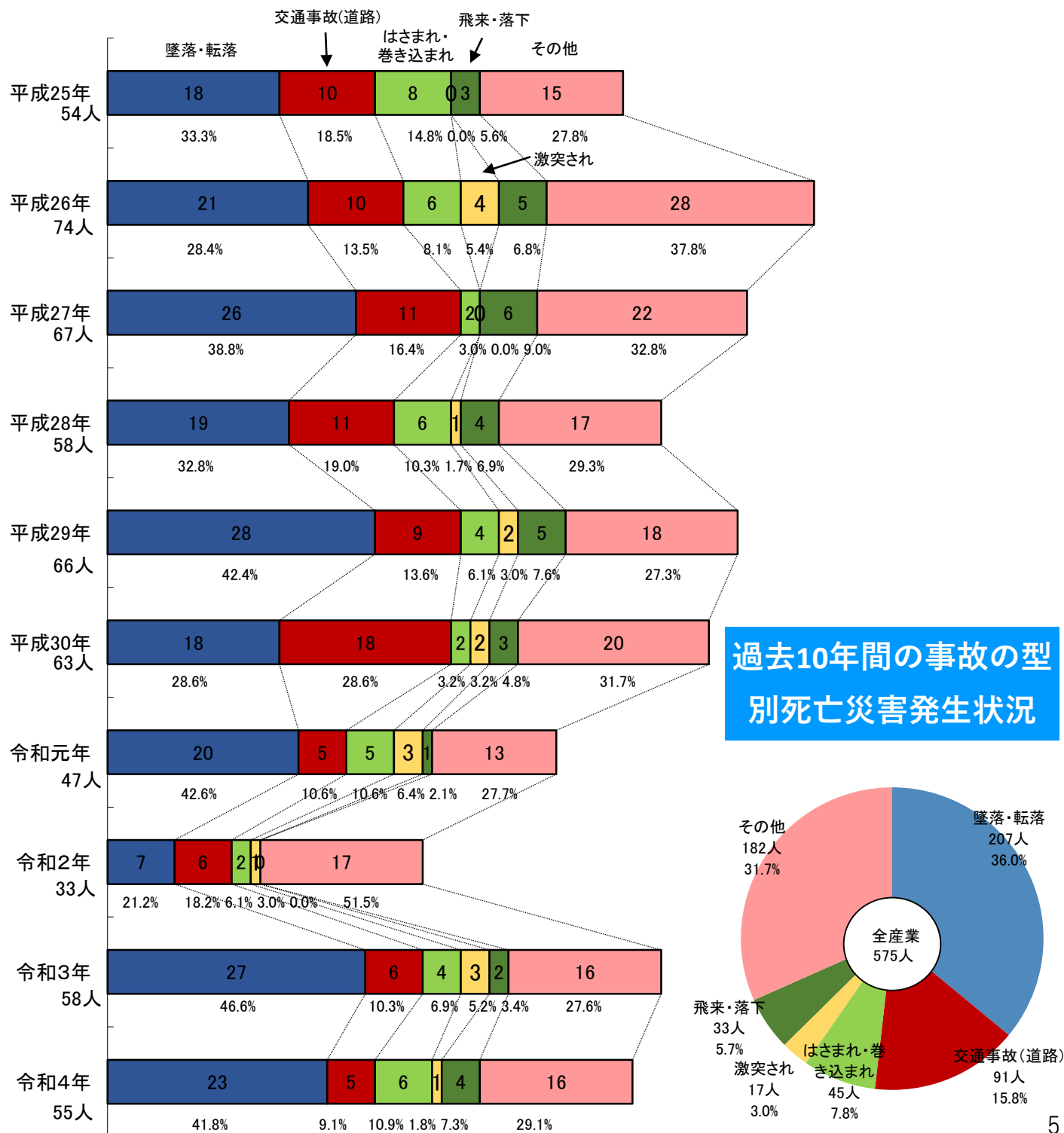
事故の型別死亡災害発生状況の推移

－ 「墜落・転落」がトップ－

令和4年の死亡災害55人を事故の型別にみると、「墜落・転落」が23人と前年より4人減少しているものの依然最も多く、全体の4割を超えています。

続いて、「はさまれ・巻き込まれ」が6人、「交通事故（道路）」が5人、「飛来・落下」が4人の順で多く死亡災害が発生しました。

事故の型別死亡災害発生状況の推移 (新型コロナウイルス感染症へのり患によるものを除く)



4 業種別死傷災害発生状況の推移

－ 第三次産業の発生件数がトップ －

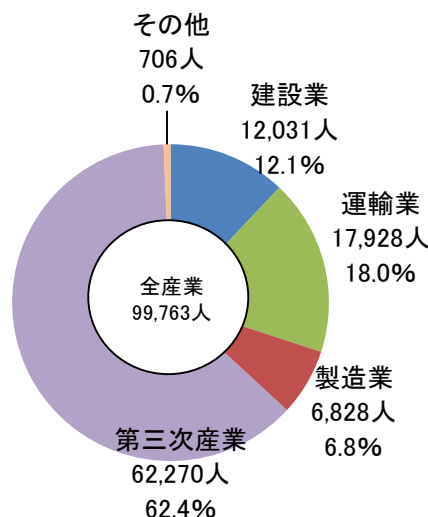
令和4年の休業4日以上産業別の死傷者数は、第三次産業が66.7%を占め最も多く、次いで運輸業が17.0%となっています。

平成27年を境に第三次産業が全体に占めている割合が60%を超えています。

業種別死傷災害発生状況の推移 (新型コロナウイルス感染症へのり患によるものを除く)



過去10年間の業種別労働災害発生状況

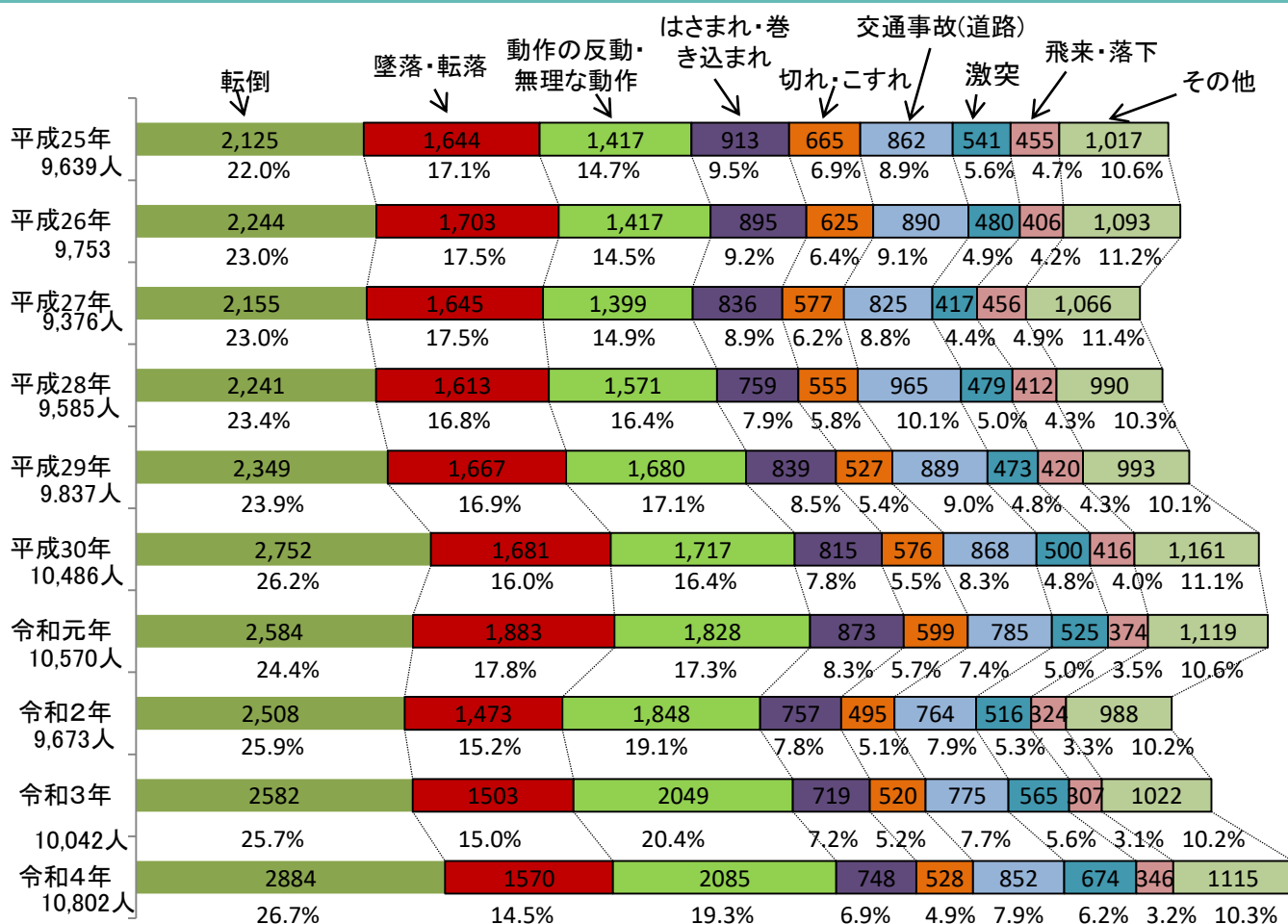


事故の型別死傷災害発生状況の推移

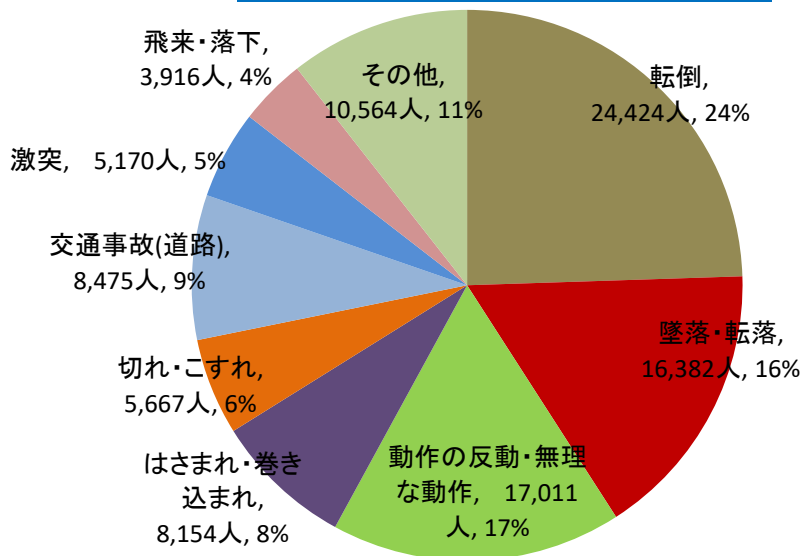
－ 「転倒」の発生割合が過去最大 －

令和4年の死傷災害を事故の型別にみると、「転倒」が26.7%と過去最大の発生割合となり、「墜落・転落」、「動作の反動・無理な動作」を合わせた災害で、全体の6割を超える状況となっています。

事故の型別死傷災害発生状況の推移 (新型コロナウイルス感染症へのり患によるものを除く)



過去10年間の事故の型別死傷災害発生状況



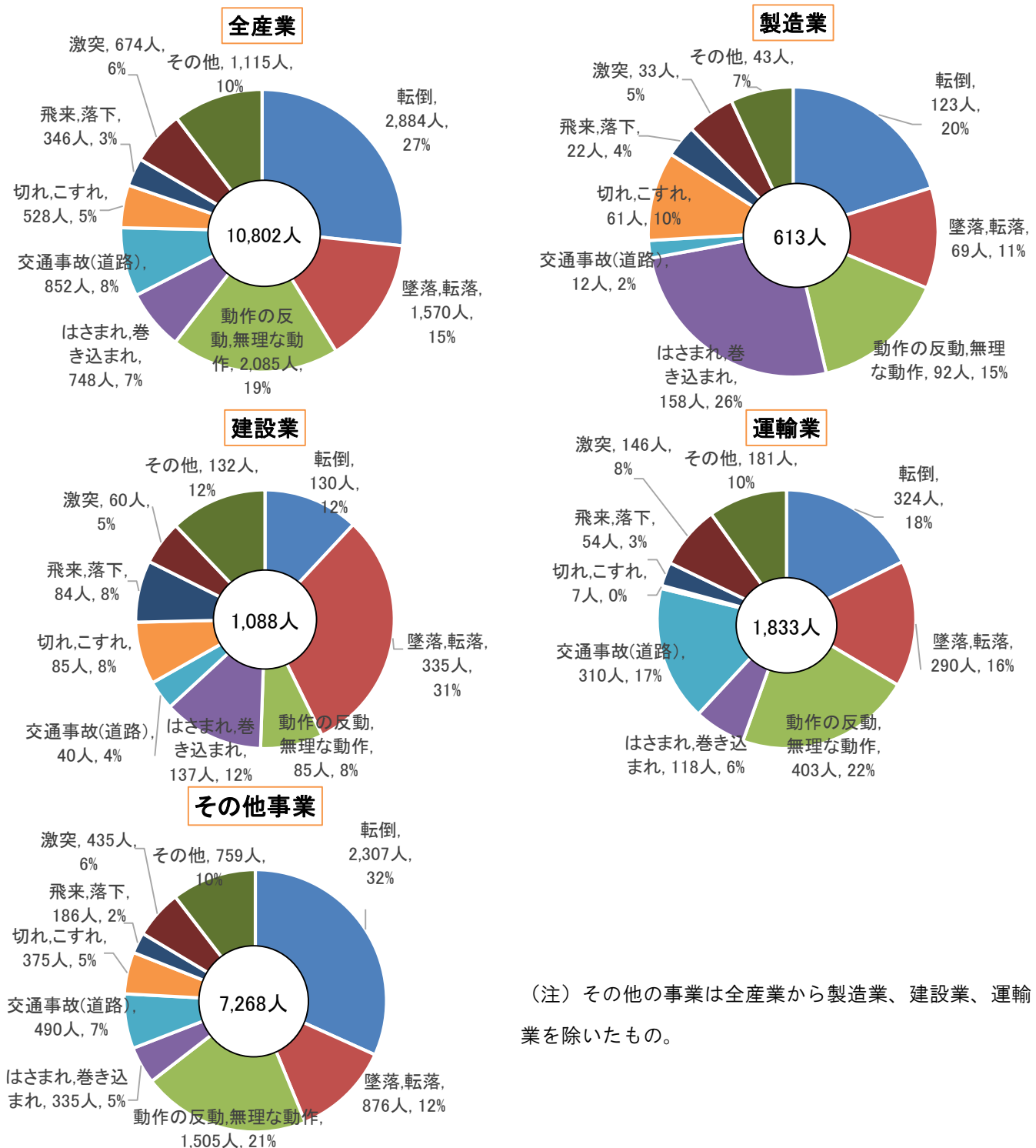
業種別・事故の型別・起因物別死傷災害発生状況

－ 業種によって異なる死傷災害のパターン －

令和4年の休業4日以上死傷災害を「事故の型」と「起因物」に分類すると、業種によって特徴のある災害パターンを示しています。

(1) 業種別・事故の型別（令和4年） （新型コロナウイルス感染症へのり患によるものを除く）

事故の型別にみると、製造業では「はさまれ・巻き込まれ」、建設業では「墜落・転落」、運輸業では「動作の反動、無理な動作」、その他の事業では「転倒」がそれぞれ高い割合を示しています。

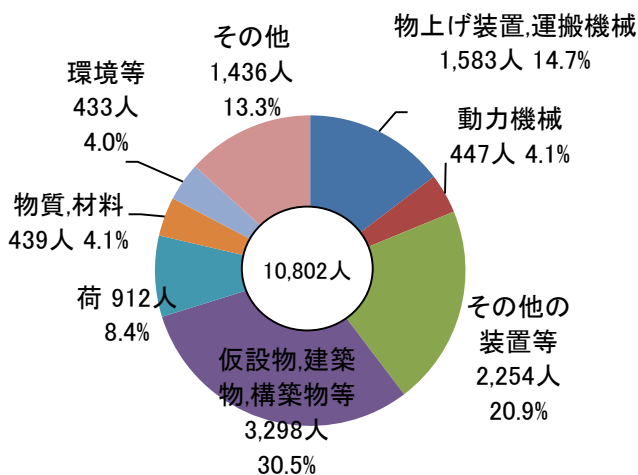


(2) 業種別・起因物別 (令和4年)

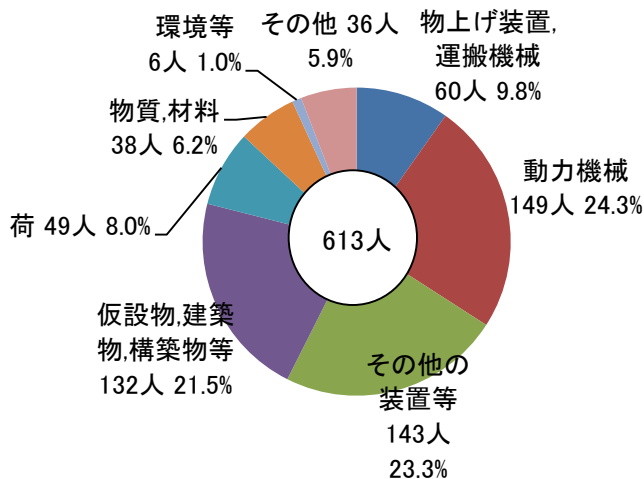
(新型コロナウイルス感染症へのり患によるものを除く)

起因物別にみると、製造業では「動力機械」(食品加工用機械など)、建設業では「仮設物・建築物・構築物等」(足場など)、運輸業では「物上げ装置、運搬機械」(トラックなど)、その他の事業では「仮設物・建築物・構築物等」(階段など)が高い割合を示しています。

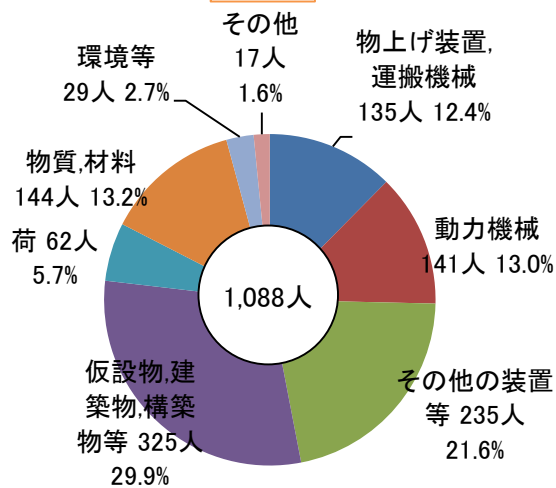
全産業



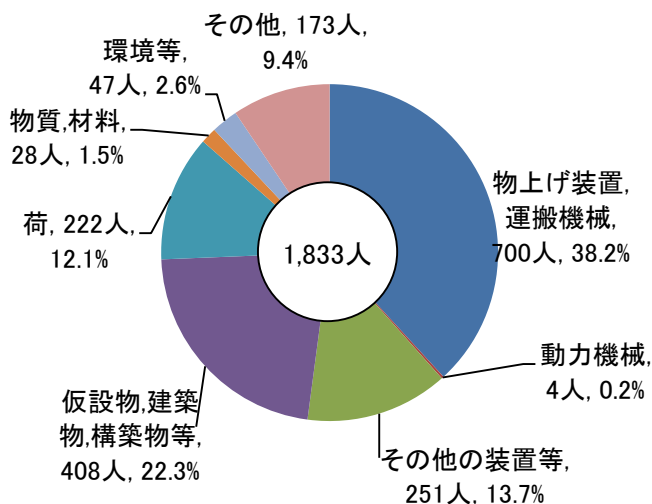
製造業



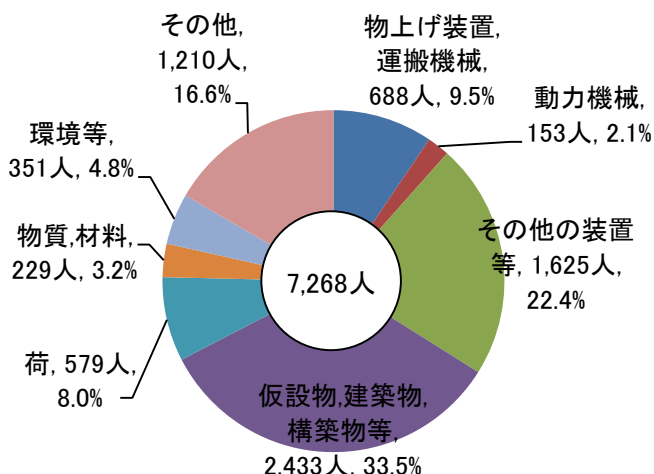
建設業



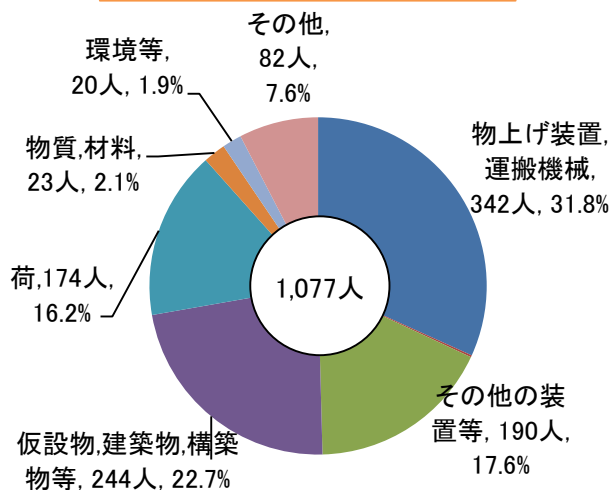
運輸業



その他の事業



運輸業のうち陸上貨物運送事業



過去5年間の工事別死亡災害発生状況をみると、「建築工事」が59人（62.8%）と半数以上を占めており、事故の型別では「墜落、転落」が43人（45.7%）、起因物別では「仮設物、建築物、構築物等」が37人（39.4%）とそれぞれ最も多くなっています。

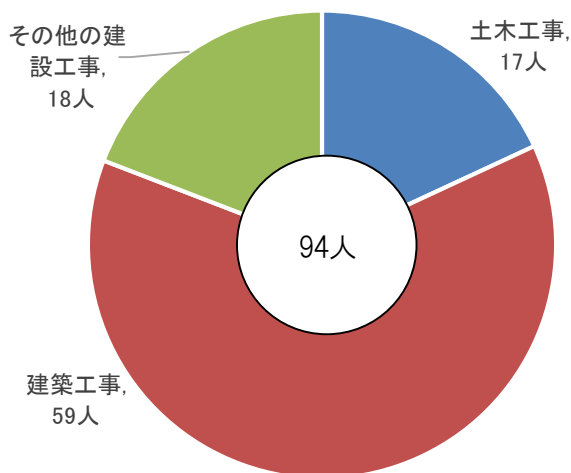
墜落高さ別にみると、「2～5m未満」が17人と最も多く、また、2m未満の高さからの墜落死亡者数も7人となっています。

起因物別で最も多い「仮設物、建築物、構築物等」37人の具体的内訳をみると、「足場」が13人（35.1%）と最も多くなっています。

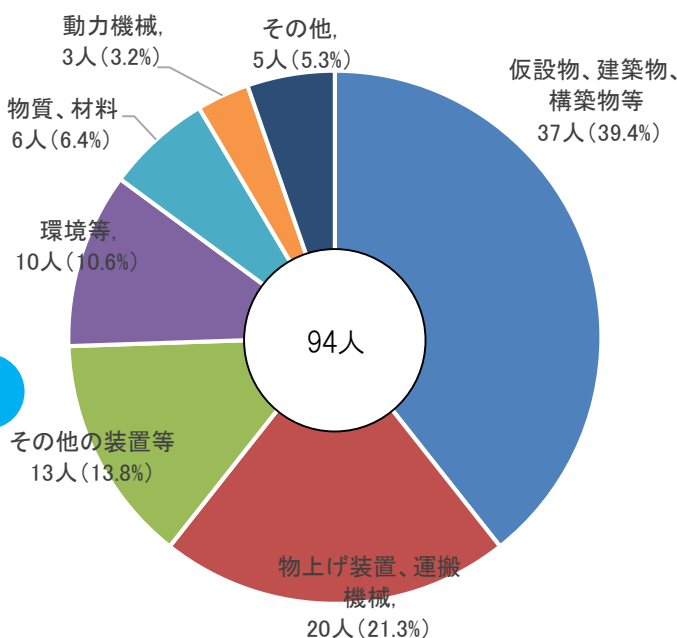
年齢別にみると、60歳代が22人と最も多く、50歳以上が全体の5割を超えています。

経験年数別にみると、10年以上の経験者64人（68.1%）、1年未満の経験者5人（5.3%）となっています。

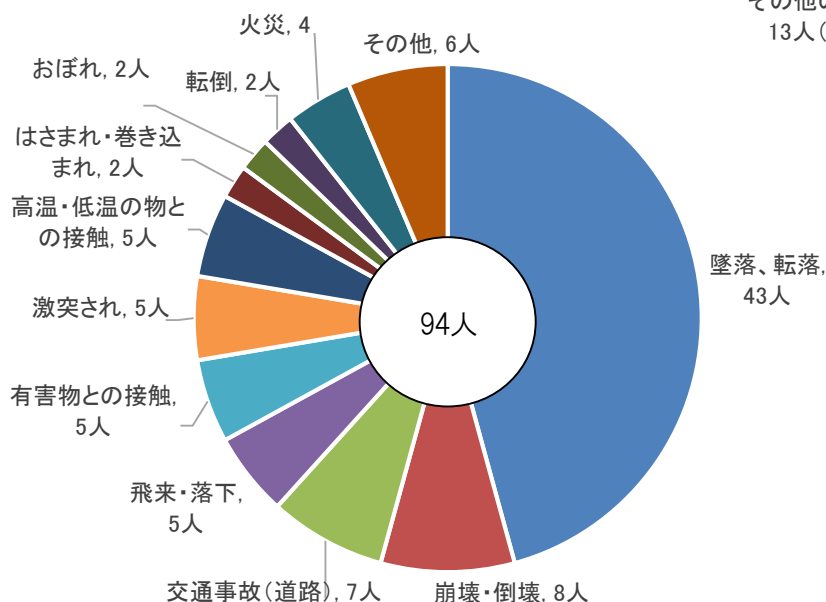
工事別発生状況



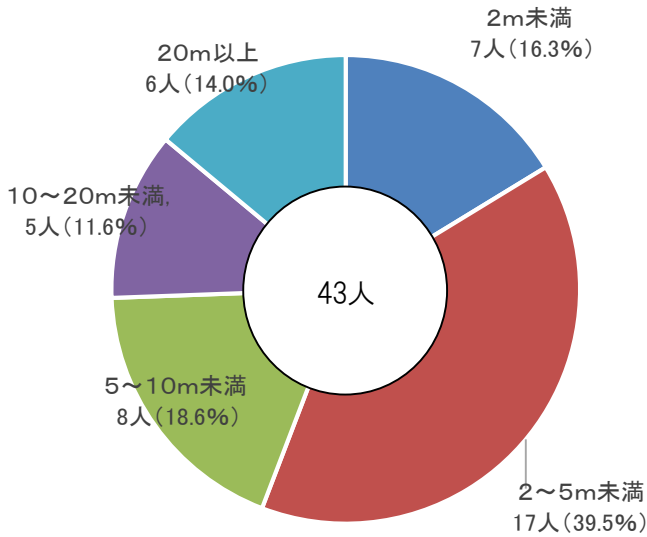
起因物別発生状況



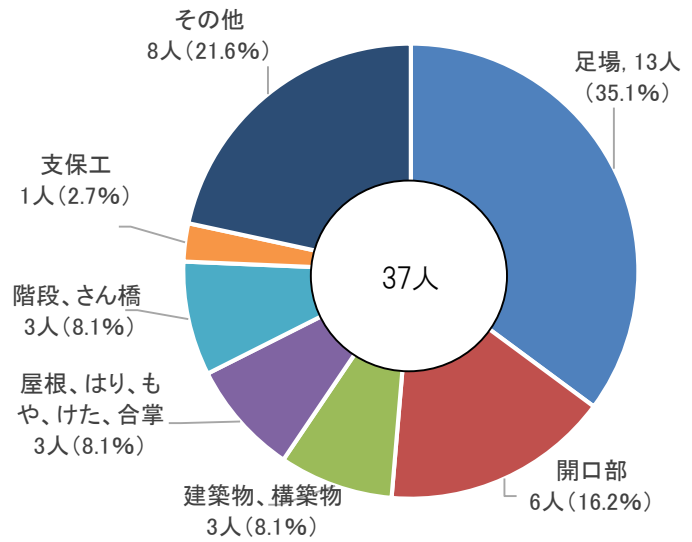
事故の型別発生状況



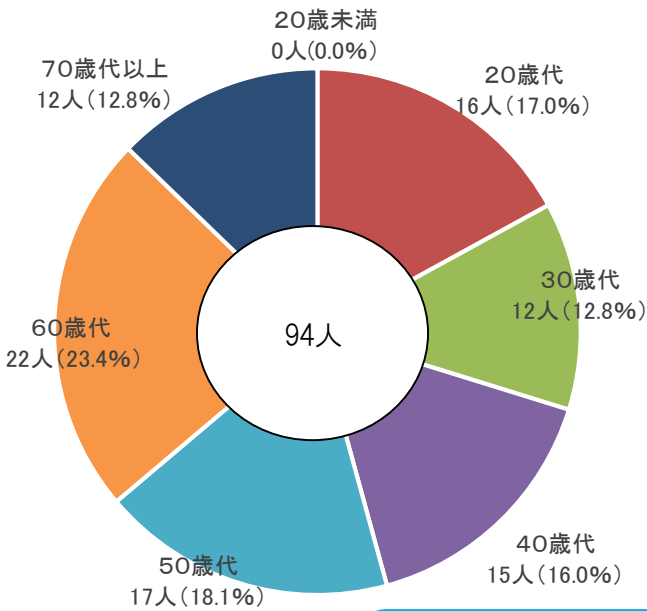
墜落の高さ別発生状況



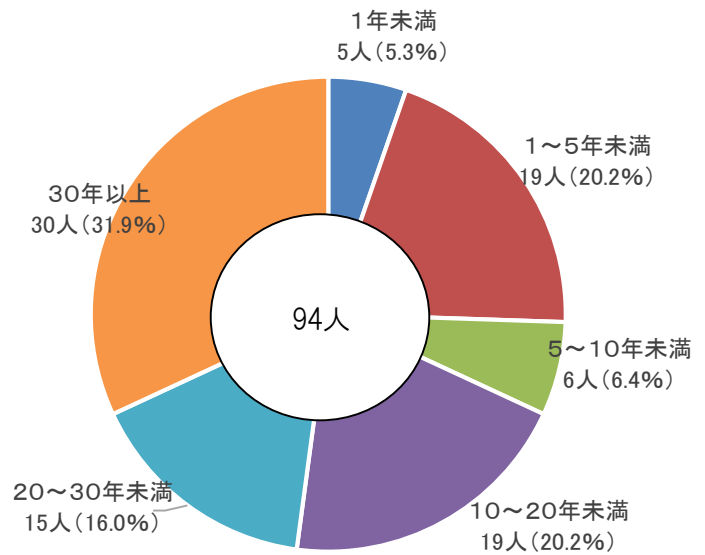
仮設物、建築物、構築物別発生状況



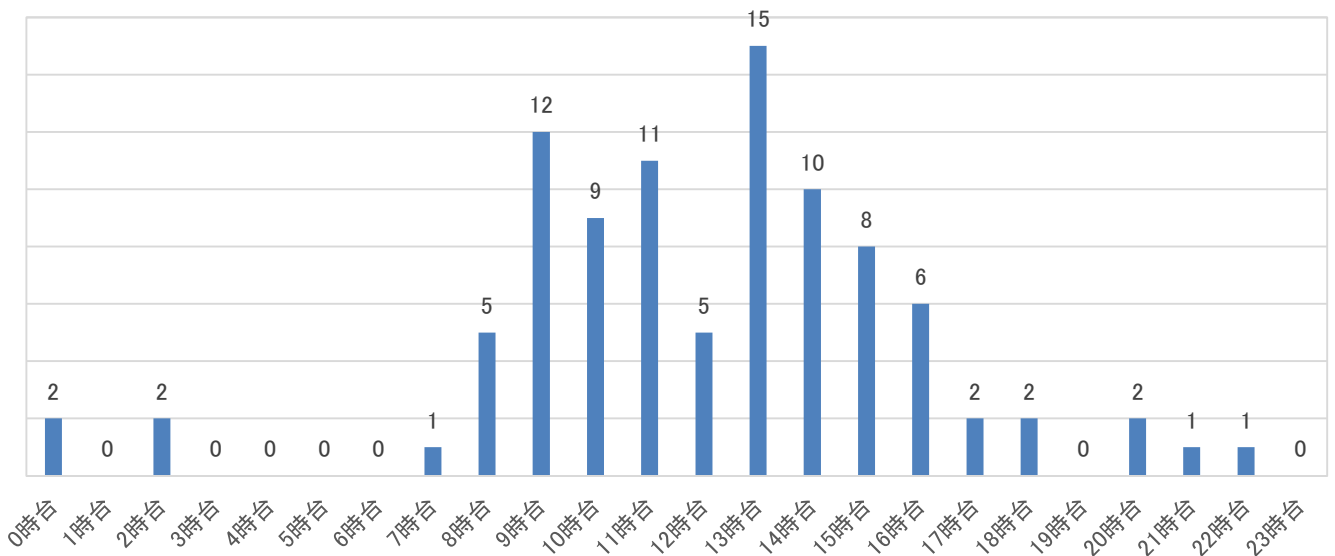
年齢別発生状況



経験年別発生状況



発生時刻別

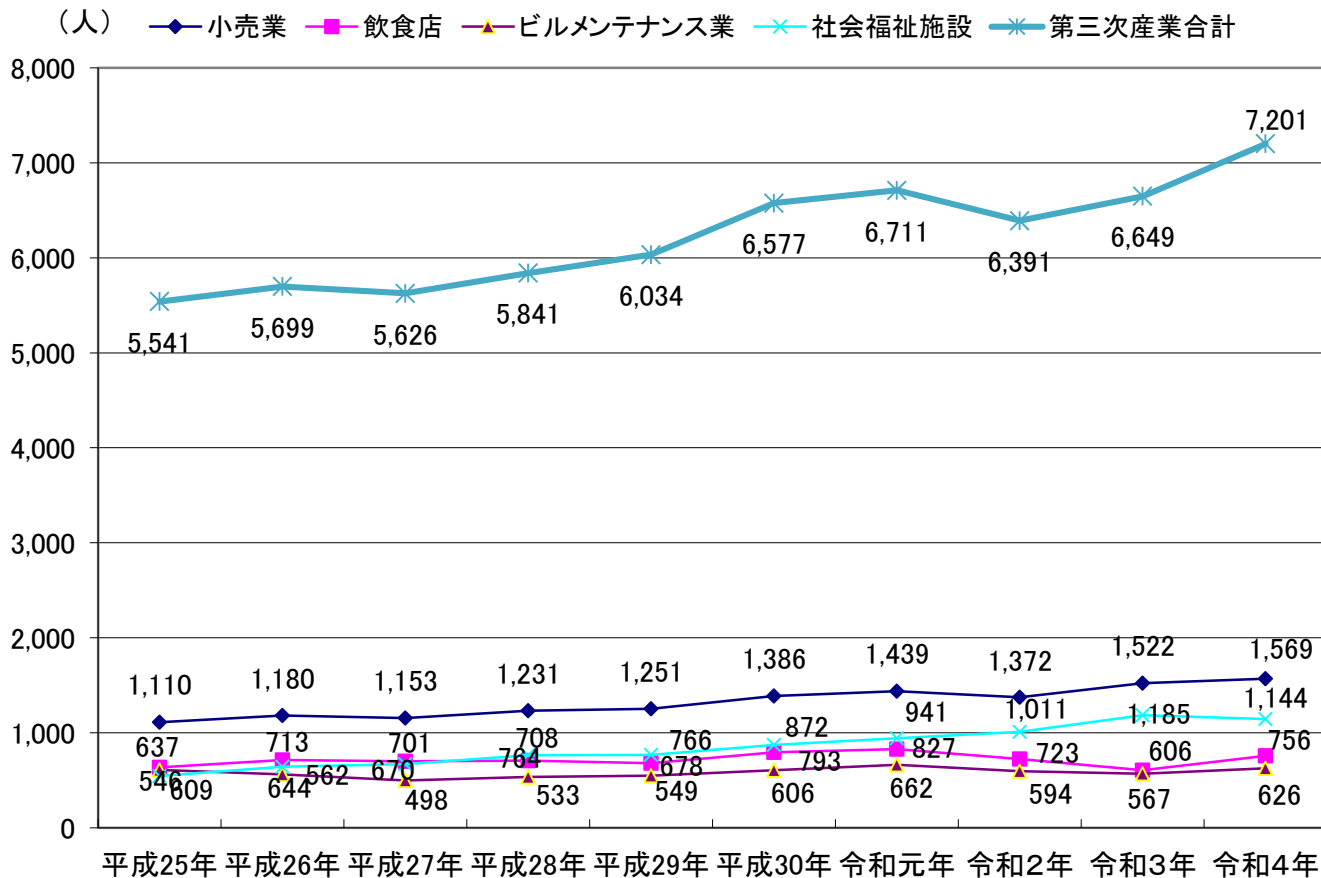


第三次産業における死傷災害発生状況

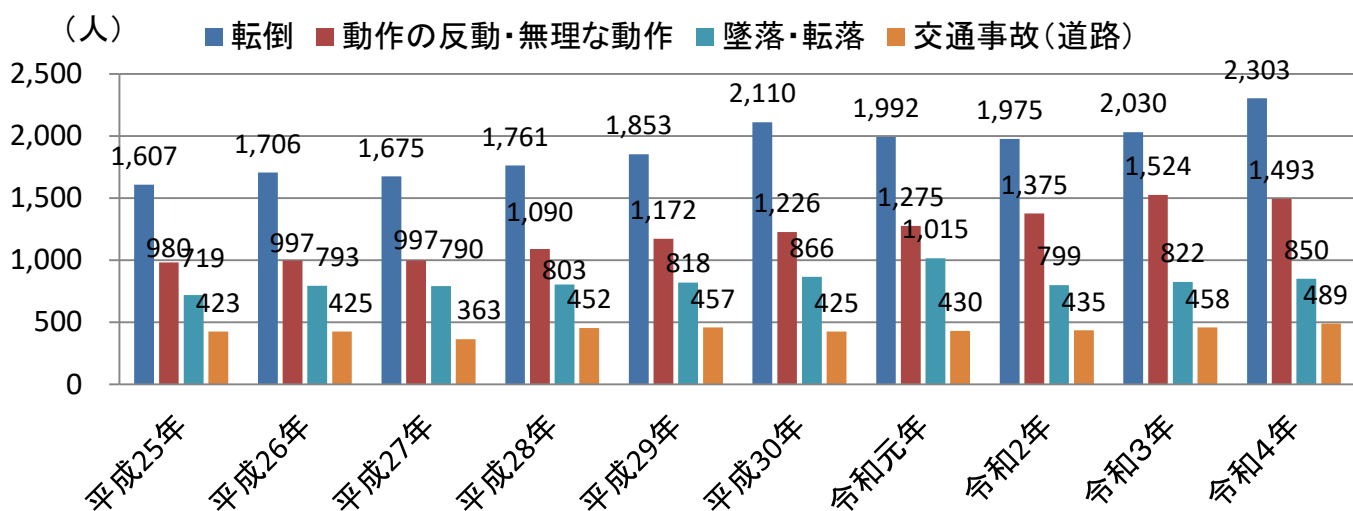
令和4年の第三次産業における新型コロナウイルス感染症へのり患によるものを除いた休業4日以上の死傷者数は7,201人で、前年と比較すると552人(8.3%)増加しました。第三次産業の中では、小売業、社会福祉施設、飲食店、ビルメンテナンス業の順に多く、この4業種で第三次産業の56.9%を占めています。

事故の型別では、「転倒」が2,303人と最も多く、第三次産業全体の32.0%を占めています。

第三次産業における死傷災害発生状況



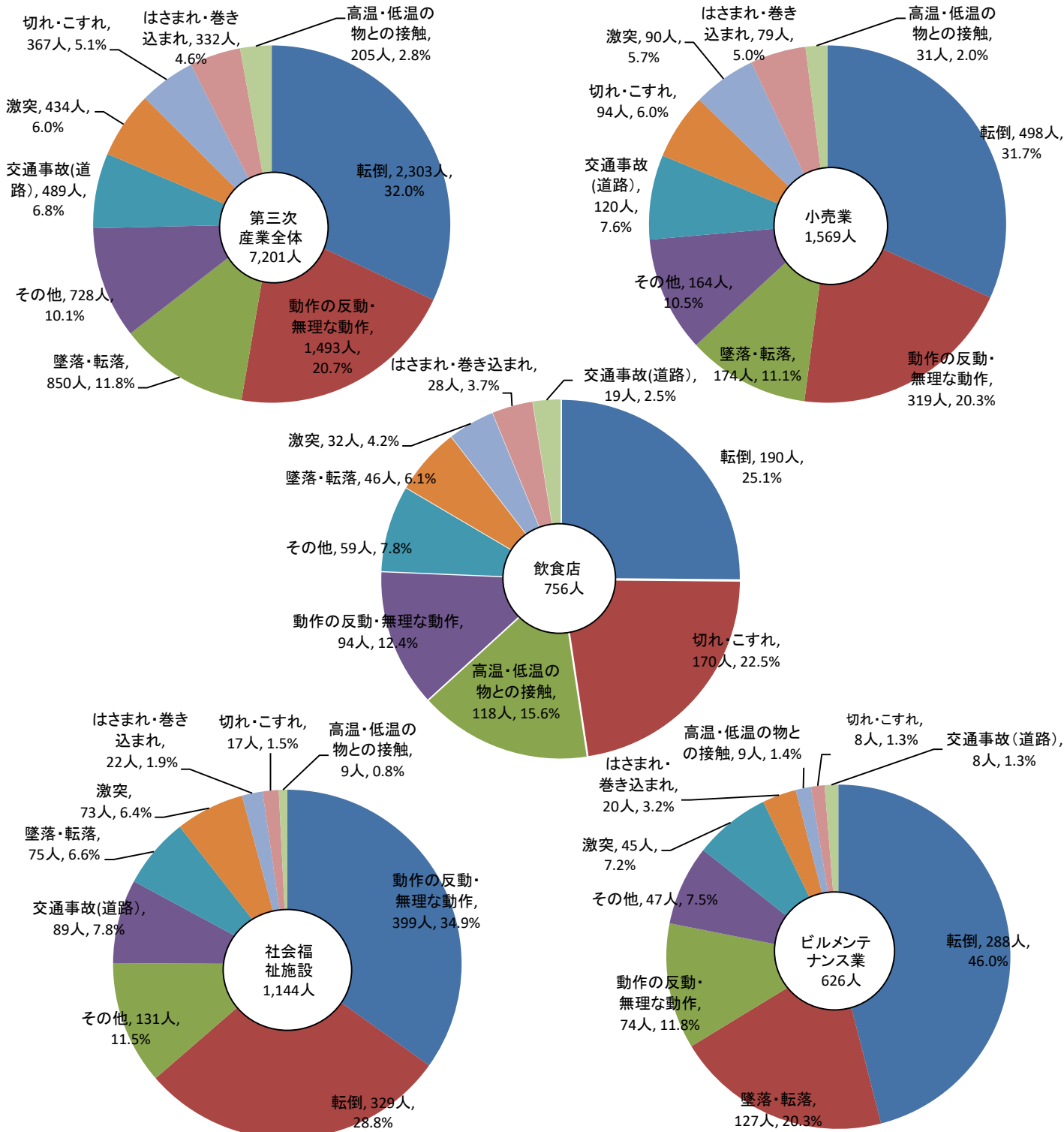
第三次産業死傷災害の「事故の型」別推移



第三次産業における業種別・事故の型別死傷災害発生状況（令和4年）

令和4年の第三次産業の事故の型別では「転倒」の割合が最も多くが32.0%を占めており、次いで「動作の反動・無理な動作」の20.7%となっています。

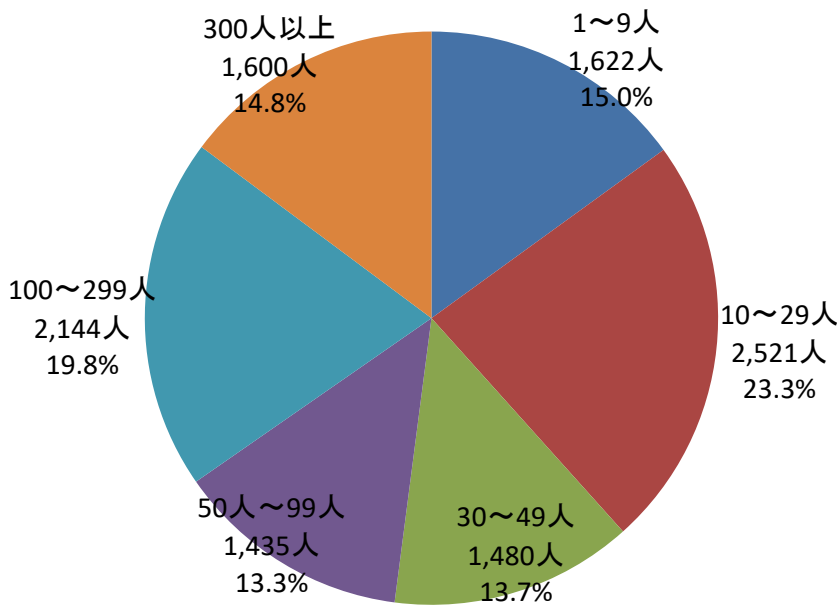
業種別にみると、小売業では「転倒」、「動作の反動・無理な動作」が、飲食店では「転倒」、「切れ・こすれ」が、社会福祉施設では「動作の反動・無理な動作」、「転倒」が、ビルメンテナンス業では「転倒」、「墜落・転落」が多く発生しています。



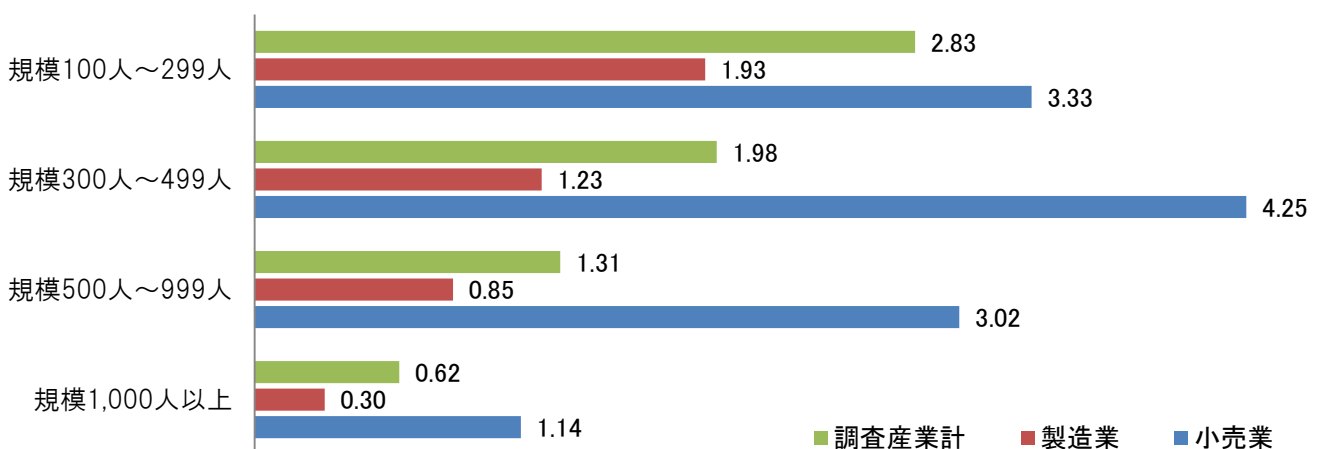
労働災害動向調査による全国の規模別の度数率(労働災害の発生頻度を示す指標)をみると、調査産業計と製造業では規模が小さくなるに従って度数率は高くなっています。

製造業では規模1,000人以上の事業場の度数率が0.30に対し、規模100人～299人の事業場が1.93となっており災害の頻度において約6.4倍高くなっている状況にあります。

事業場規模別死傷者数(休業4日以上)(令和4年)(東京)



事業場規模別度数率(令和4年)(全国)



度数率とは、
$$\frac{\text{労働災害による死傷者数(休業1日以上)}}{\text{延べ実労働時間数}} \times 1,000,000$$

<資料>労働災害動向調査(厚生労働省調査結果)

常用労働者100人以上の事業場及び総合工事業の工事現場における、休業1日以上の業務上の死傷災害発生率を取りまとめたものである。

製造業死亡災害事例

月	業種	職種	事故の型	発生状況の概要
		年齢 経験	起因物	
2月	化学工業	製造員	飛来、落下	製造したアスファルトを貯蔵するサイロ内にてサイロの補修作業を行っていたところ、事務所内にてプラント操作を行っていた労働者がボタン操作を誤り、別のサイロに投入すべきアスファルトが被災者が作業を行っているサイロに投入され被災者が圧迫されたもの。
		30歳代		
		10年以上20年未満	石、砂、砂利	
7月	窯業土石製品製造業	製造員	はさまれ、巻き込まれ	トラックで搬入されたガラス板の束（約2 t）を、トラックのコンテナから、天井クレーンを用いて積み下ろす作業を実施していた。玉掛けを担当していた被災者が、7束目の積み下ろしに着手した際、玉掛けに先立ちコンテナとガラス束とを固定していた鉄の帯を破壊したところ、当該ガラス板の束が倒れ、被災者がこれとコンテナの床との間に挟まれたもの。
		50歳代		
		1年以上5年未満	荷姿の物	

建設業死亡災害事例

月	業種	職種	事故の型	発生状況の概要
		年齢 経験	起因物	
1月	その他の建設業	作業員	墜落、転落	トラックの荷台から機器を下ろす作業の際、テールゲートリフターに機器を載せて位置の調整をしていたところ、被災者が機器とともにテールゲートリフターから墜落し被災者は機器の下敷きとなったもの。
		70歳代		
		20年以上30年未満	トラック	
3月	その他の建設業	設備機械工	墜落、転落	建物屋上の空調室外機の撤去作業中、建物屋上を台車資材を移動中に高さ19 mから墜落したもの。
		20歳代		
		1年以上5年未満	作業床、歩み板	
5月	建築工事業	土工	激突され	公共施設庁舎改築工事現場において、被災者が現場内の掘削残土に混入するゴミを手で取り除く作業を行っていたところ、同残土の搬出作業を行っていた別事業場の労働者が運転するドラグショベルのバケットに接触したもの。
		60歳代		
		30年以上	整地・運搬・積込み用機械	
7月	建築工事業	作業員	崩壊、倒壊	被災者はフォークリフトを運転し、型枠材を推定3メートルの高さまで積み上げたのち、フォークリフトの運転席から離れ、手作業により当該型枠材の位置を調整していたところ、当該型枠材が倒壊し、下敷きとなったもの。
		50歳代		
		30年以上	荷姿のもの	
11月	建築工事業	作業員	墜落、転落	被災者はマンション新築工事現場4階ベランダで脚立を使用し雨どいの接続作業を行っていたが、足を踏み外して約10メートル下の地上へ墜落したもの。
		60歳代		
		10年以上20年未満	はしご等	
12月	土木工事業	その他の作業員	爆発	マンホール内（深さ約20 m）で、被災者2人がはしごの交換のための作業をしていたところ、マンホール内に存在した可燃性ガスに何らかの原因で着火し、マンホール内で爆発が起こったもの（2名死亡）。
		50歳代 30歳代		
		10年以上20年未満 1年以上5年未満	可燃性のガス	

運輸業死亡災害事例

月	業種	職種	事故の型	発生状況の概要
		年齢	起因物	
		経験		
2月	道路貨物運送業	作業員	墜落、転落	垂直搬送機の2階部分においてエラーが発生したと連絡を受けたため、原因を探るために垂直搬送機昇降路内部を事業場の2階フロアから目視にて確認していたところ、昇降路内部に墜落したものの（高さ約8m）。
		50歳代		
		10年以上20年未満	エレベータ、リフト	
12月	陸上貨物取扱業	フォークリフト運転者	激突	被災者が、倉庫内でフォークリフトを運転し、パレットを取りに行こうと走行したところ、柱に激突し、被災者の腰部付近がフォークリフトと柱に挟まれたもの。
		40歳代	フォークリフト	
		1年以上5年未満		

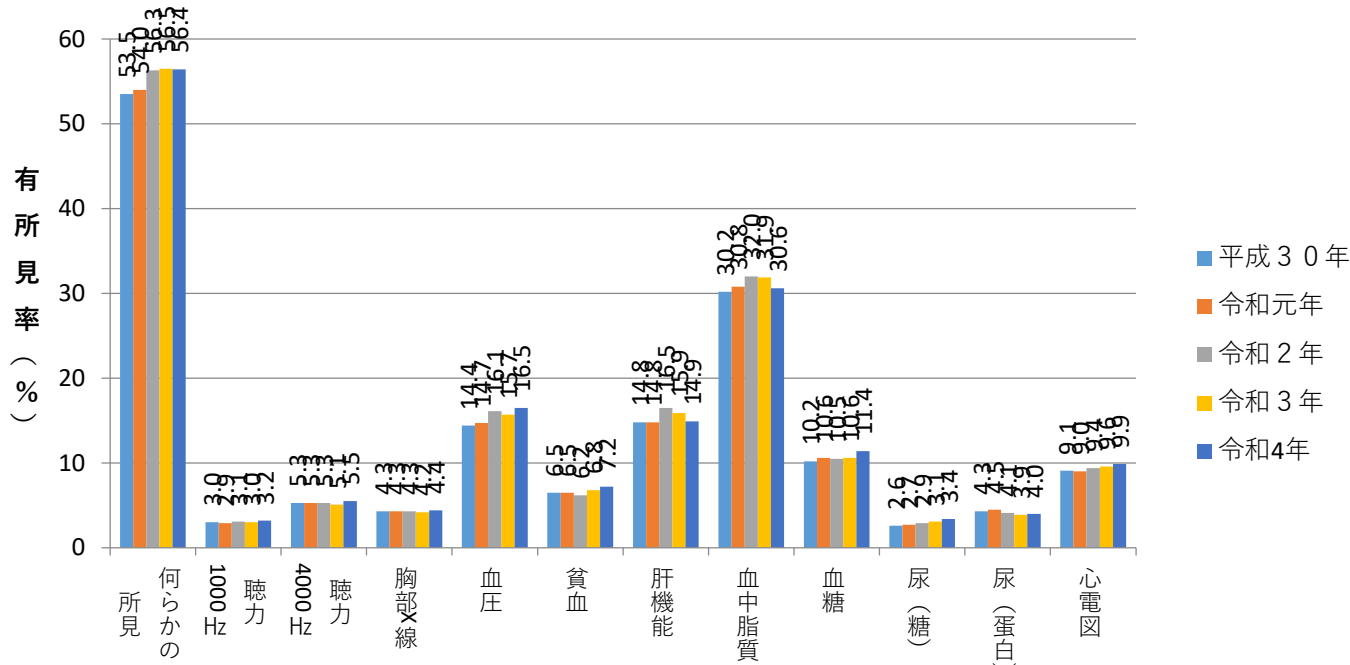
第三次産業死亡災害事例

月	業種	職種	事故の型	発生状況の概要
		年齢	起因物	
		経験		
1月	その他の事業	警備員	転倒	敷地内を歩いていたところ、前日の降雪により凍結した路面上で転倒し左後頭部を打ったもの。
		60歳代	その他の環境等	
		10年以上20年未満		
4月	清掃と畜業	作業員	はさまれ、巻き込まれ	廃材の圧縮梱包を行う大型油圧プレスのメンテナンスのために機械内部に立ち入ったところ、機械の運転を停止していなかったことから、プレス台座の作動センサーが感知し、プレス台座が横移動したため、当該設備の内壁面との間に挟まれ下半身が切断されたもの。
		60歳代	その他の一般動力機械	
		10年以上20年未満		
7月	卸売業	作業員	飛来、落下	中学校の給食配膳用の小荷物専用昇降機の巻上機およびワイヤロープの交換作業を実施した。交換作業終了後、被災者がピット内で確認作業を実施していたところ、当該小荷物専用昇降機と重しを接続していたワイヤロープから重しが外れ、当該小荷物専用昇降機の搬器が落下してきたもの。
		50歳代	エレベータ、リフト	
		30年以上		
7月	清掃と畜業	作業員	墜落、転落	日常清掃を委託されたマンションにて植栽剪定作業を行っていた被災者が、脚立の横で頭部に剪定ばさみが刺さった状態で倒れていたところを発見され病院に搬送されたが、約1か月後に死亡したものの。
		70歳代	はしご等	
		1年未満		
8月	その他の事業	その他の職種	はさまれ、巻き込まれ	被災者は出張先の店舗駐車場に乗用車を駐車し車外に出たところ、何らかの理由により乗用車が後進し始めたことで、運転席のドアに押され、体勢を崩し倒れ、後進し続けた乗用車の下敷きになったもの。
		50歳代	乗用車、バス、バイク	
		10年以上20年未満		
10月	その他の事業	警備員	交通事故（道路）	被災者が工事現場の車両誘導業務において、現場内にあった2台の車両を退出させ、その箇所にトレーラーを搬入させた後、一旦場外に退出させた車両が駐車箇所に向かおうと公道を後退してきたところ、背後から轢かれたもの。
		60歳代	トラック	
		20年以上30年未満		
12月	その他の商業	作業員	墜落、転落	被災者が伸縮式の移動はしごを用いて高さ約6メートルの箇所にある建物のガラス窓の清掃を行っていた際に墜落したものの。
		40歳代	はしご	
		10年以上20年未満		

令和4年に発生した他の死亡災害事例は、東京労働局のホームページに掲載しています。

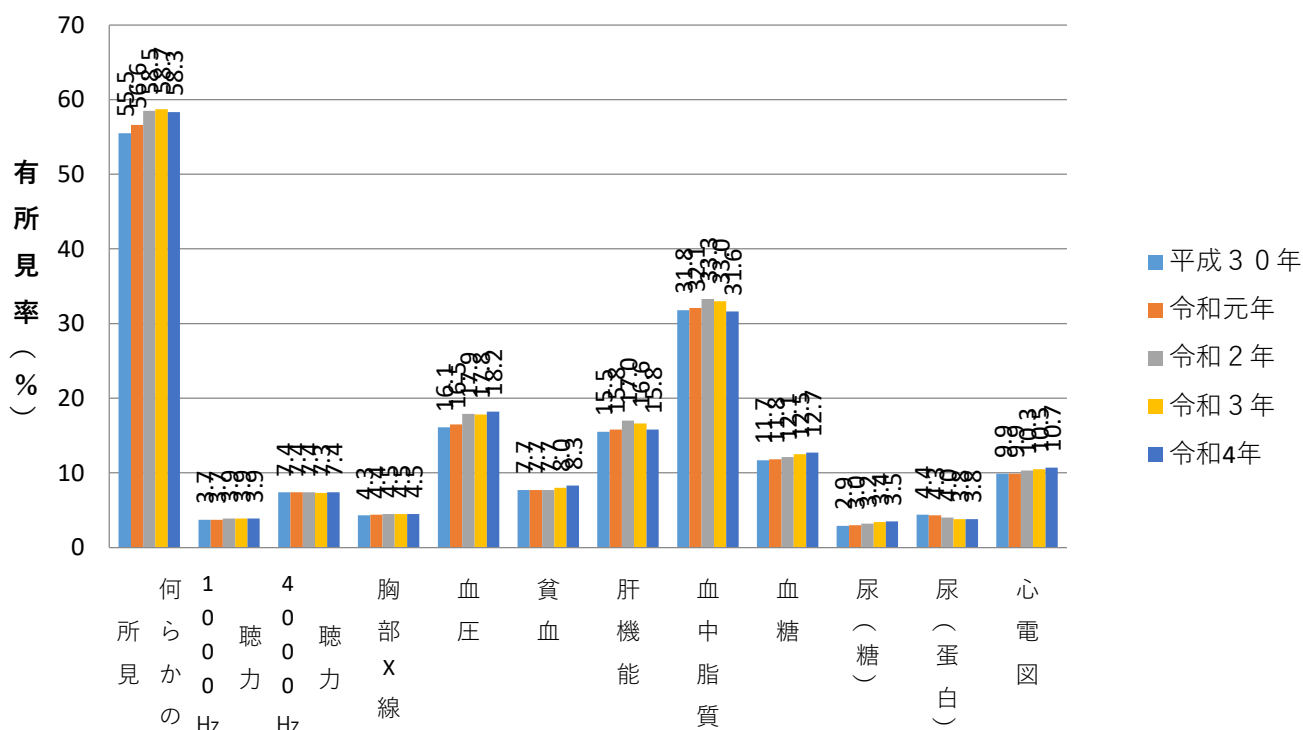
- 東京の定期健康診断の有所見率は年々増加傾向にあり、令和4年は56.4%となっています。また、全国では58.3%となっています。
- 健診項目別では「血中脂質」、「肝機能」、「血圧」等生活習慣病の健診項目の有所見率が高く、それぞれ、30.6%、14.9%、16.5%となっています。

定期健康診断検査項目別有所見率（東京）



* 令和4年分については、令和4年10月の労働安全衛生規則の改正前後の有所見を各期間で加重平均した推計値です。

定期健康診断検査項目別有所見率（全国）

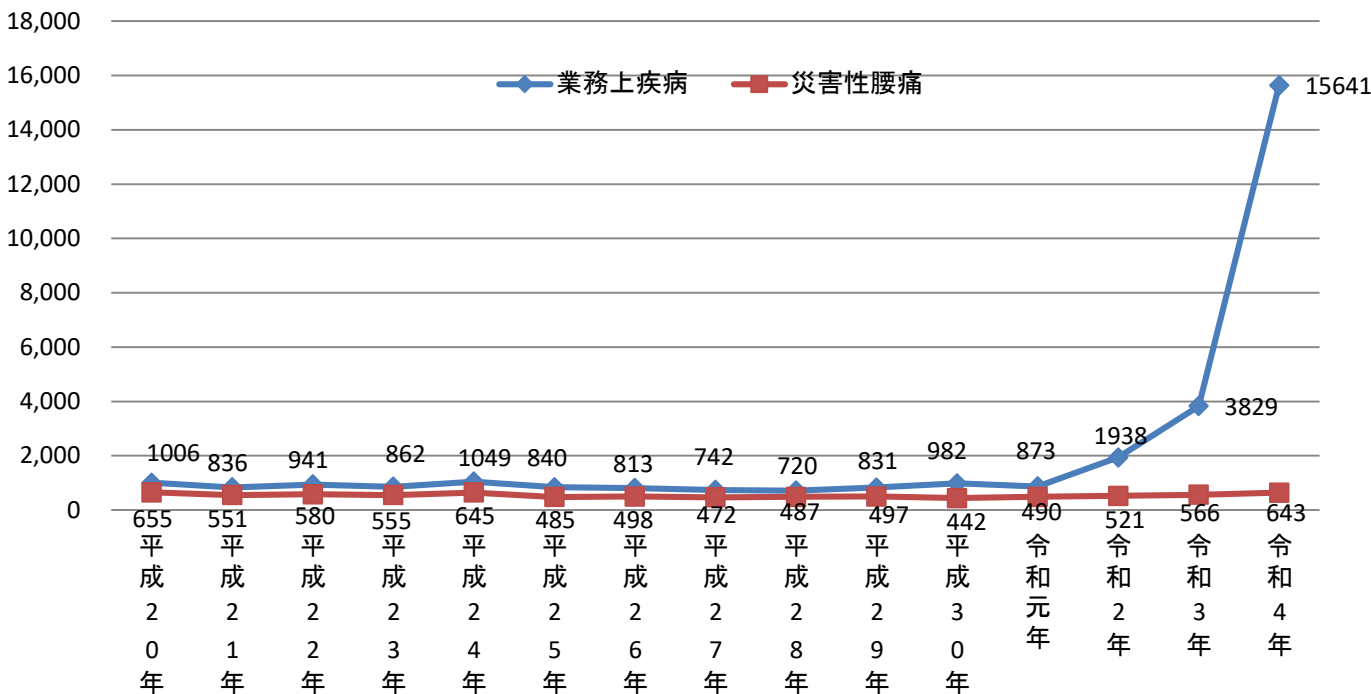


* 令和4年分については、令和4年10月の労働安全衛生規則の改正前後の有所見を各期間で加重平均した推計値です。

- 令和4年の東京の労働災害のうち、業務上疾病（死亡及び休業4日以上。以下同じ）の発生件数については新型コロナウイルス感染症を含むため大きく増加しています。
- 災害性の腰痛は前年に比べ1割以上増加し、依然として高い比率を占めています。

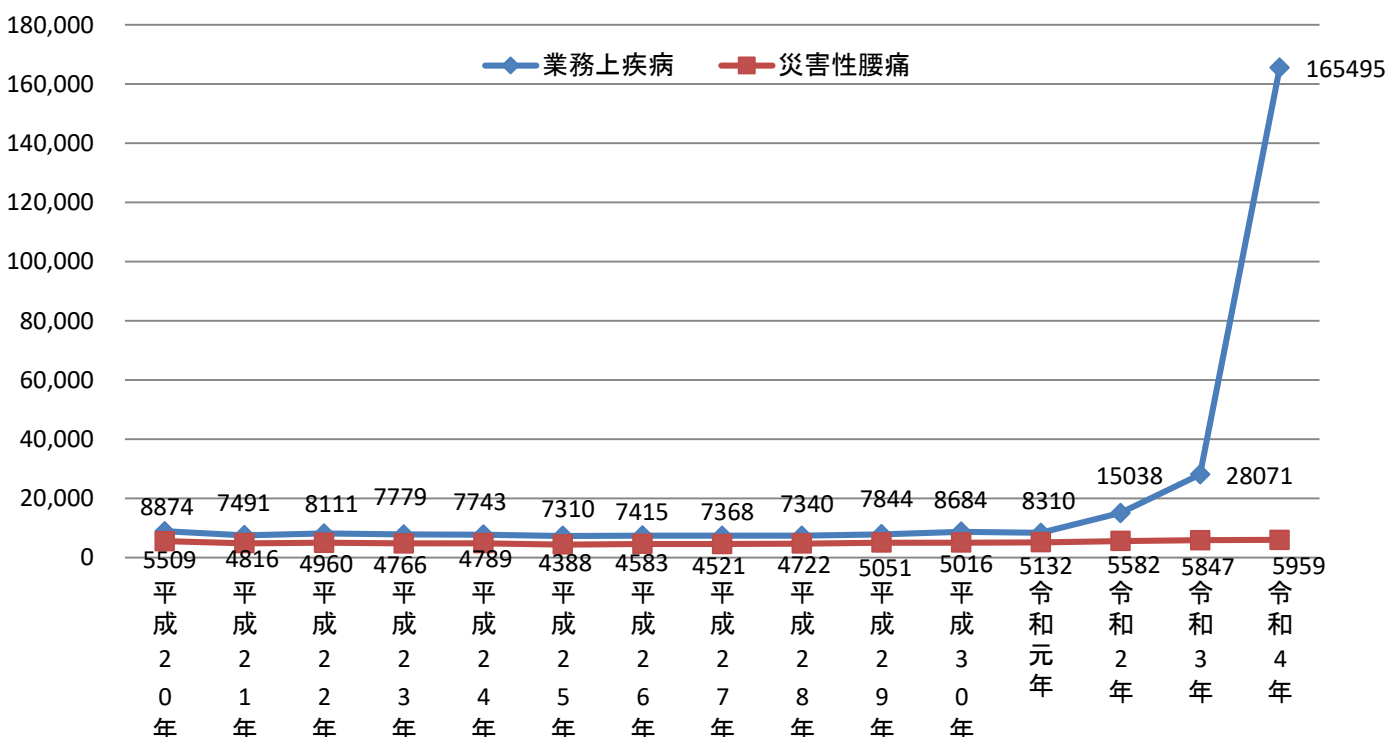
東京

(人)



全国

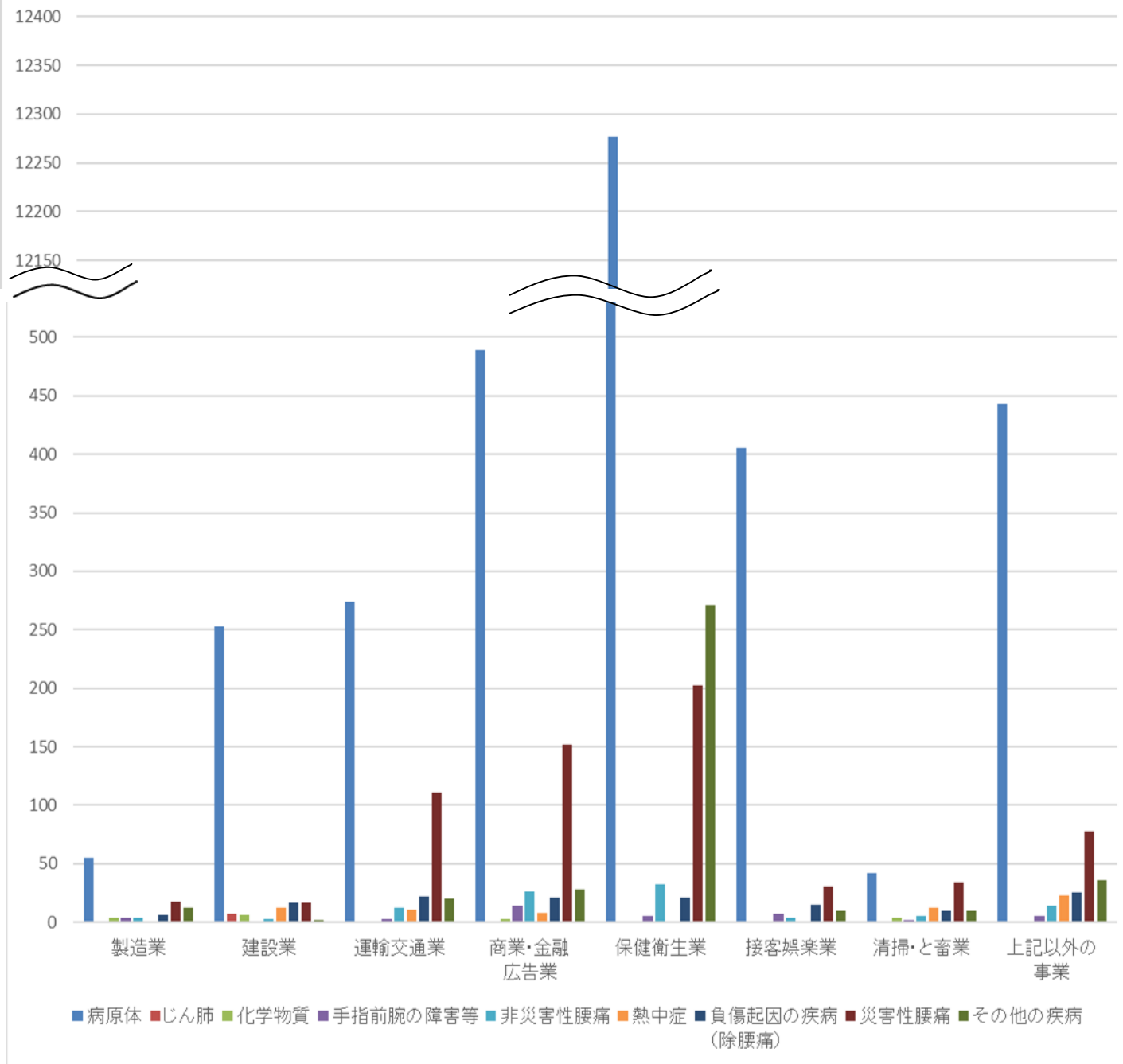
(人)



令和4年 業種別・疾病別発生状況（東京）

- 業務上疾病の業種別の発生状況をみると、保健衛生業、商業・金融・広告業の順に多く発生しており、新型コロナウイルス感染症の影響が顕著にみられます。
- 新型コロナウイルス感染症を除く疾病別に見ると「災害性腰痛」が最も多くなっています。

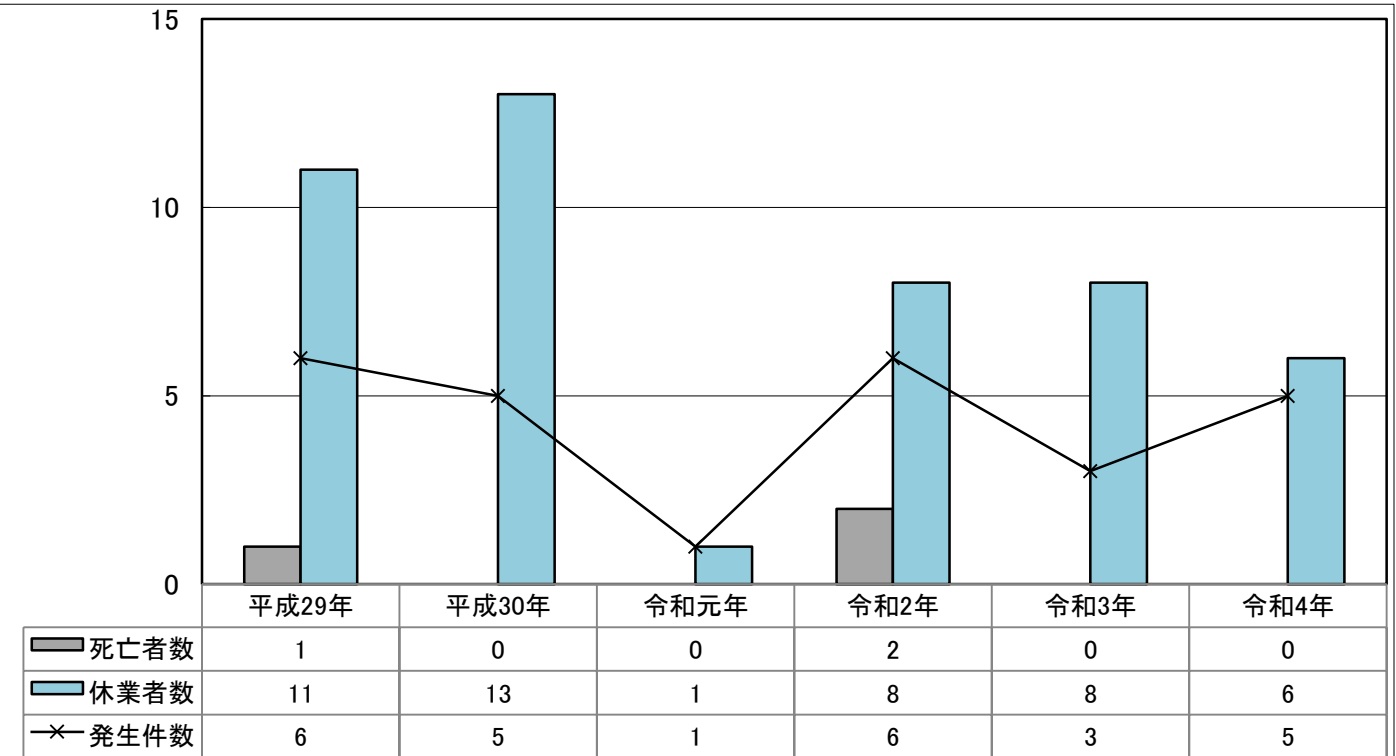
令和4年 業種別・疾病別発生状況（東京）



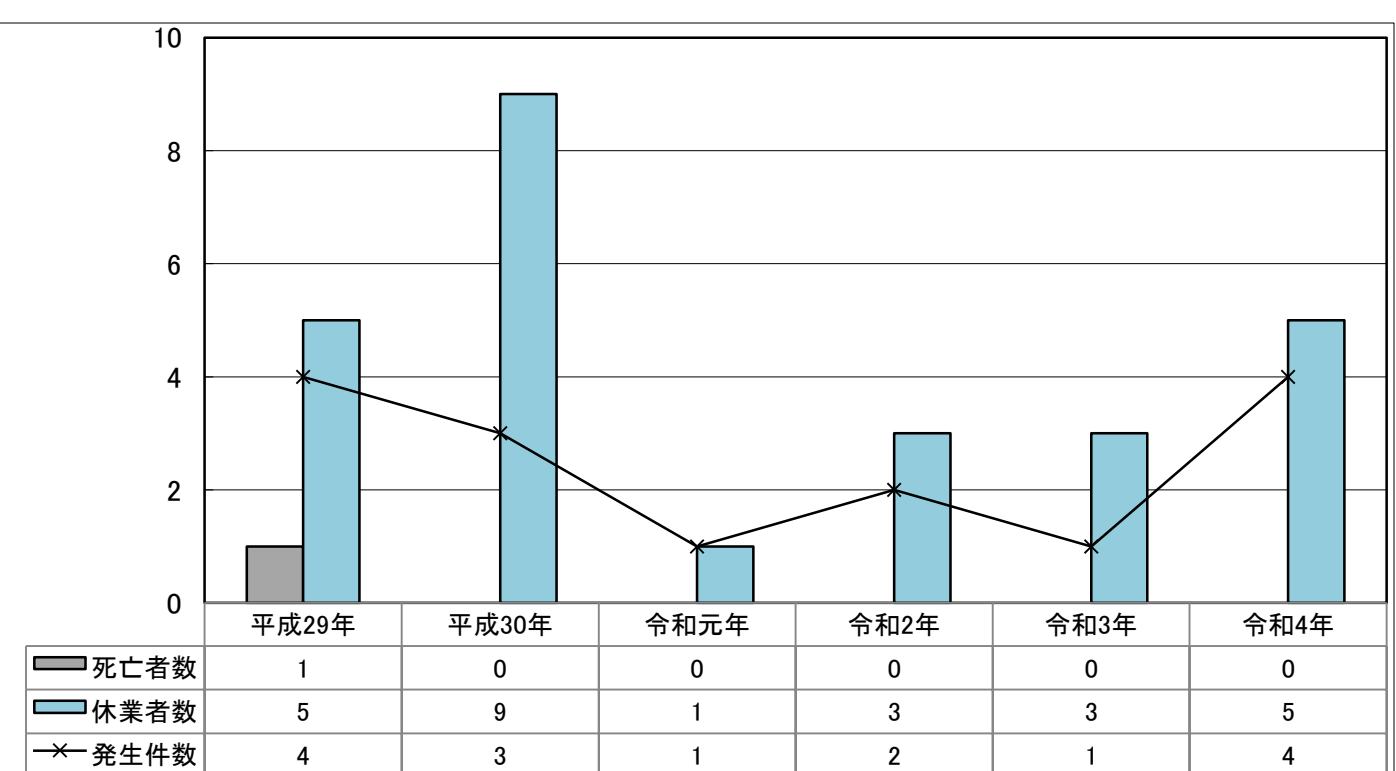
一酸化炭素中毒による労働災害発生状況（平成29～令和4年）

- 令和4年の一酸化炭素中毒の発生件数は、全産業で5件、建設業で4件となっています。平成29年から令和4年までの6年間を見ると、全産業で26件の発生がありましたが、そのうち建設業での発生が5割（15件）以上を占めています。

東京、全産業

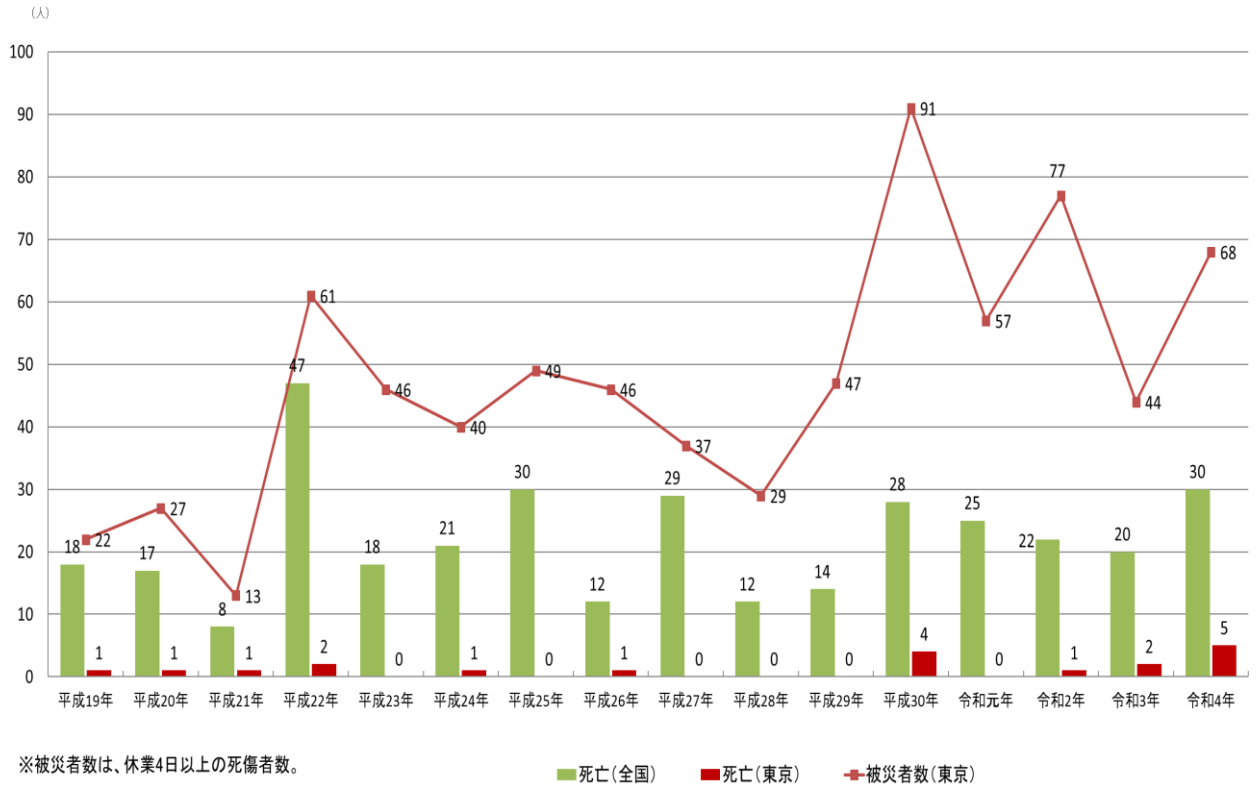


東京、建設業

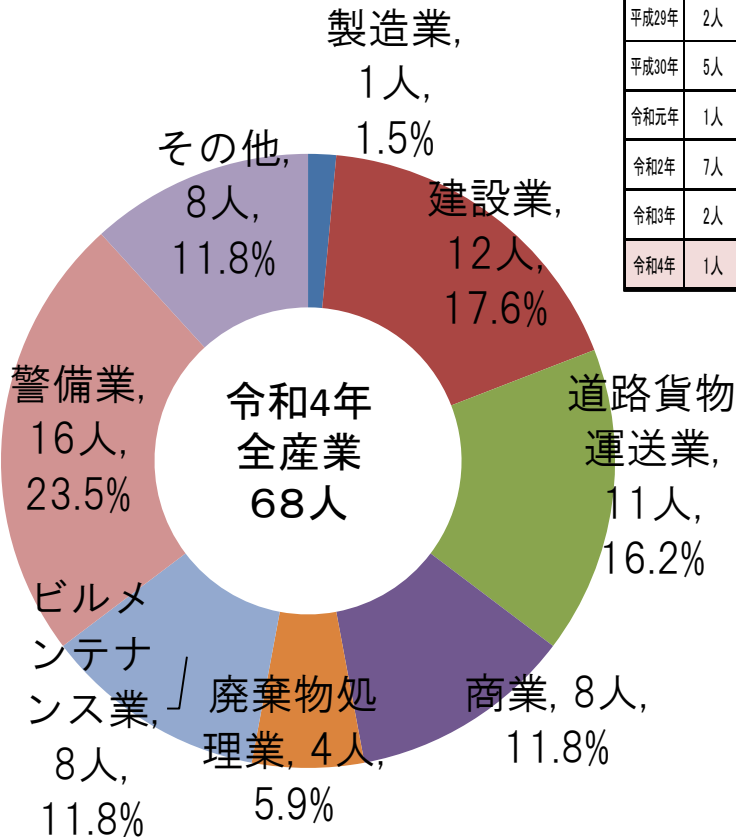


熱中症の発生状況の推移

被災者数(東京)・死亡者数(東京)・全国



	製造業	建設業	道路貨物運送業	商業	接客娯楽業	廃棄物処理業	ビルメンテナンス業	警備業	通信業	その他	計
平成28年	2人	5人	4人	4人	1人	0人	2人	4人	1人	6人	29人
平成29年	2人	11人	9人	2人	1人	1人	3人	7人	0人	11人	47人
平成30年	5人	21人	14人	11人	1人	4人	6人	15人	1人	13人	91人
令和元年	1人	13人	7人	7人	0人	4人	6人	11人	1人	7人	57人
令和2年	7人	14人	10人	10人	3人	3人	4人	13人	2人	11人	77人
令和3年	2人	6人	4人	8人	1人	2人	4人	10人	0人	7人	44人
令和4年	1人	12人	11人	8人	0人	4人	8人	16人	0人	8人	68人



東京の労働衛生関係災害発生事例（令和4年）

化学物質による中毒等

発生月	事業の種類	原因物質	災害のあらまし
1月	研究又は調査の事業	アジ化ナトリウム	実験室で商品試作作業に従事していた労働者2名が、乳製品の保存試験のサンプルを評価するため、試飲を行っている際、分析用と風味検査用の2種類あるサンプルのうち誤って分析用サンプル（分析用には防腐剤としてアジ化ナトリウムが添加されていた。）を試飲し、数分後に倒れこみ、救急搬送され、薬物性中毒と診断されたもの。
4月	設備工事業	一酸化炭素	一戸建て住宅の1階車庫及び外部鉄骨階段の塗装工事を行っていた際、1階車庫の天井部の塗装作業のため、通風が不十分な車庫内で、内燃機関を有するコンプレッサーを使用して吹付けによる塗装作業を行っていたところ、被災労働者が意識を失って倒れているのを同僚労働者が発見し、救急搬送され、搬送先の病院で一酸化炭素中毒と診断されたもの。
6月	精密機械器具製造業	ホルムアルデヒド	事業場の脱脂炉と脱臭装置を繋ぐアルミダクトが排気操作の誤りにより、破損し、脱脂炉で発生したホルムアルデヒドが脱臭装置に排気されず、アルミダクトより漏洩した。目と喉に刺激を感じた作業員（派遣社員を含む）16名が被災したものの。
9月	化学工業	窒素酸化物	金部門棟3階において、被災者が500Lタンクに鉄とニッケルの合金を投入し硝酸で溶解する作業中に、合金と硝酸との過剰反応が生じ、タンクから漏洩した硝酸ガスを吸引し、化学性肺炎・呼吸不全となったもの。
9月	食料品製造業	硫化水素	被災者が、脱水機室において、流量調整槽の臭気配管に測定器を入れて硫化水素濃度を測定していたところ、漏出した臭気を吸い硫化水素中毒となった。
9月	飲食店	一酸化炭素	開店前の準備作業中、被災者がナンを焼く際に使用する釜に炭を入れ燃焼させていたところ、意識を失い救急搬送され、一酸化炭素中毒と診断されたもの。
10月	解体工事業	一酸化炭素	解体工事現場において、被災者4名が集会所の石綿含有外壁塗材の除去作業を隔離養生内で行っていた。午後1時30分頃から被災者らに気分が悪いとの症状が現れ、午後2時00頃に隔離養生の外へ出たが、症状が回復せず、救急搬送された。搬送先の病院にて治療を受け、一酸化炭素中毒と診断された。（発電機の排気口を養生シートに向けて設置、使用したことから、排気熱で養生シートに穴が開き、発電機の排気が隔離養生内に流れ込んだものと思われる。）
11月	輸送用機械器具製造業	有機溶剤	工場内のプッシュプル型換気装置を稼働させた塗装ブース内で防毒マスクを装着し自動車のドアの吹付塗装作業に従事していたところ、令和4年11月25日の休憩後息苦しさを訴え早速、再出勤した同月28日の同勤務終了後、自宅にて息苦しさとめまいで倒れ、搬送された病院でトルエン中毒と診断されたもの。

熱中症

発生月	事業の種類	傷病名	災害のあらまし
6月	ビルメンテナンス業	熱中症	研究所内のごみの収集運搬の受託業者の労働者である被災者は、8時頃から研究所内の10か所のごみ集積場をトラックでまわり、ごみを回収し、同敷地内の最終集積場まで運搬する業務（1人作業）に従事していた。3回目の回収を終えた15時頃、被災者の運転するトラックが詰所近くの避難階段、駐輪場に激突し、車内で動けなくなっている被災者が発見されたもの。
6月	警備業	熱中症	木造家屋建築工事の警備を炎天下で行っていた被災者が立てない状況となり、救急搬送されたが、2日後に熱中症による多臓器不全により死亡したものの。

腰痛

発生月	事業の種類	傷病名	災害のあらまし
1月	病院	腰痛	通所リハビリテーションの浴室内で、利用者様の入浴介助を行っている時、利用者様の背中を洗うため、中腰になるように屈んだ直後、腰に激しい痛みを感じ歩けなくなった。
6月	卸売業	腰痛	倉庫内で配送準備中に商品を詰めたオリコン（7～8kg）を急いで移動させようとしたところ、腰に激しい痛みを感じ動けなくなった。
11月	小売業	腰痛	店内精肉作業場冷凍庫にて、冷凍庫にある原料を運ぼうとした時、原料のダンボール箱の底がステンレスの棚にくっついていて、ダンボール箱を持ち上げた際に腰を痛めた。

感染症等その他

発生月	事業の種類	傷病名	災害のあらまし
11月	その他の事業	ツツガ虫病	風況観測塔設置を行った草地で観測塔の不具合を確認中にツツガ虫に噛まれた。その後、発熱及び頭痛等の症状が出たため、病院にて検査をしたところ、ツツガ虫病と診断された。